自立、社会参加を促す

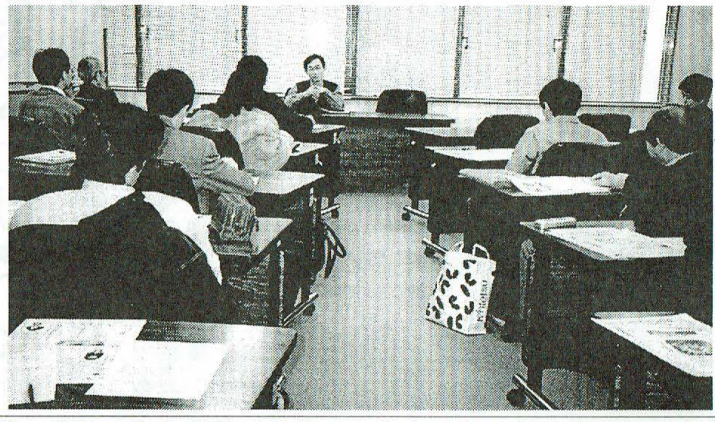
ハンデイをささえるモノづくり通信

福祉機器住宅研究会
発行責任者
代表・杉浦史郎
765－4041

制作協力
朝日新聞大阪本社
読者室
電話06（201）8033

人格を持った人間として

ひまわり園・園長　新開　英夫



月例会で講演される新開園長

「ただいまです」。「おはようございます」の挨拶を、ときどきこう言い替えて登園する仲間、台風でもバスさえ動いていれば来る仲間、仕事の妨害をしてよく仲間から叱られても、（園では仲間がしかりますが）休まず来る仲間。会長手ずくりの昼食メニューを、毎月ワープロで作ってくる仲間。

ここ「ひまわり園」では小さい（男女一五名）ながらも楽しい社会そのものです。

家庭から離れ、自由でお互い一個の人格を持った人間としてやってきます。自分が来なければ皆が困ると一人一人が思っているようです。

平成三年四月、私の福祉活動の師である、日本心身障害者更生援護会会長柿原保氏が、「まず仲間の自主性を引き出し、やりがいを実感できる仕事によって、自立心を育て社会参加を促す」との理念を実践するために、羽曳野市に「ひまわり園」を創設しました。

当援護会の事務局を担当していました私は園長として、会長の福祉の理念を基本に、仲間とともに生きることになりました。

現在園内では、会長のモットーである「流通に乗る仕事（コンビニエンスストアの商品）」に各自連携して励み、依頼者からは頼りにされています。そして仕事に対する自信と誇りも生まれ自立心を高めているようです。

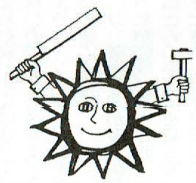
また、社会とのふれあいに重点を置く為に、出張作業として、厚生省（障害者・老人）日常生活用具給付対象品・「自動消火器」の取付工事（各福祉事務所が窓口）、また大人用紙オムツ「ひまわり」の小分け製造・出張販売（済生会富田林病院）など、希望者は順番制で出かけ、私の助手を立派に務めるとともに、対象者のお年寄りの話し相手となって、時間が過ぎるのを忘れることも度々です。

また各地域のふれあい祭や福祉機器展に参加し啓発に一役買っています。

仲間は、園への訪問者から何がいちばん楽しい？と聞かれると、「お仕事」が一番多く、次は一泊旅行（ツーリストのパック旅行参加など）、カラオケと続きます。

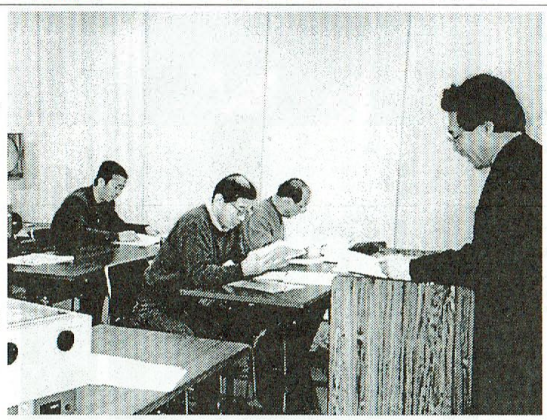
作業所の行動範囲を広げ仲間達の社会が広がり、自立、社会参加の道は実現されていくと確信しています。

今後の課題は、今まで築いてきた柿原会長の理念を実践することで、一人でも多くの仲間が、一個の人格を認められて社会参加できるように、活動を広めて生きたいと思います。



ニードを充たす手すり考

一級建築士　鴻上敬二



手すりについて話されるこう上氏

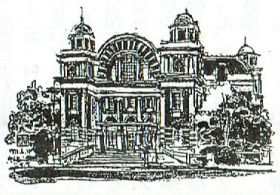
会員の皆さんは、手すりについてはよく御存じと思いますが、あえて学習会に発表したのは、手すりについての知識の再確認と研究会として標準マニアルの作成です。会としての設計や施工の指針を作り、会員誰でもが同じ知識を共有したいということもあり、これを機会に材料施工の研究会を企画したいと言うことで発表しました。

高齢者の住まい環境と言うことで、高齢期の生活は住まいの中での行動が中心となり、住環境の質が生活の質となります。帯としての住宅は安全・健康・快適で暮らしやすく安心して住み続けられる住居が必要であり、住居は生活の基礎であります。

手すりについては、手すりの役割、手すりが必要な場所、手すりの形状や大きさについて、手すりの取付け高さ、手すりの材質、手すりの施工について下地と取り付け方法など、また現在市販している手すりのメーカーリストを作成し、営業マニアル的に手すりのQ&Aとしてまとめてみました。

又今後勉強される会員のために、手すりの参考文献として16冊ほどリストアップし、最後に手すりの講演のまとめとして「手すりの仕様書」（案）をOHPにて説明しました。仕様書は初期診断チームと検討し、会員の皆さんに配付する予定です。

これからも玄関スロープや風呂場のすのこなどの仕様書を作成していきたいと思います。皆さんの参加をお待ちしています。



副代表　中北清画

助成について

大阪市では、ねたきりなど介護の必要なおおむね65歳以上の方に次のような助成があります。

改造や工事の際ご留意ください。

但し、所得税のかかるご家庭の方は、全額または一部負担です。

住宅改造・50万円

ベッド（介護用）15万9千2百円

マットレス1万5千5百円

ベッド取付け手すり5万1千円

バックレスト3万7千円

ポータブルトイレ2万6百円

床ずれ予防マット8万2千4百円

体位交換器1万5千円

介護用リフト15万9千円

食事用自助具2万円

入浴補助用具9万円

車いす7万4百円

歩行支援用具（手すり、スロープ、歩行器、杖など工事費を含む）6万円

洋式トイレガード2万円

などです。

当研究会に関わりのあるものを抜粋しました。

その他のことは、お住まいの区の福祉事務所にお問い合わせください。

10号でお知らせしました故上田隆勇氏のご遺族の方より、ご香典の中から100万円を、大阪市社会福祉協議会を通じて、当研究会にご寄付いただきました。

上田氏の生前の熱意をくみ取り、ご遺志に報いるよう使わせて頂きたいと思います。

コトバ・ことば　ADLとQOL

「ADL」（Activity of Daily Living）は、日常生活動作能力のことで、摂食・睡眠・着脱衣・移動（起座）・衛生（洗面等）・排泄・意志交換など、生活の部分に効果的なリハビリテーションを行うことであり、運動療法、機能的作業療法、日常生活訓練がされてきた。

近年、新たな目標として掲げられ出しのが「QOL」（Quality of Life）である。

QOLは、身体的な生活機能だけでなく、生活・生命・人生の全体としての「質」を高めることに重点をおいたもの。日常生活動作能力に留まらず、労働・家庭生活・趣味・文化活動・レジャー・スポーツなど人生をいかにエンジョイしていくかが問われる。

心身障害者や高齢者が、単に身体的な機能を高めるだけでなく、日常生活にいかに意義をもち、それを保障していくかに力点がおかれている。その延長線上には個々の障害者や高齢者の自己決定（選択）権や労働・文化を重視することが大切である。

具体な例としては、特に身体障害者において「自立」から「自己決定」へと焦点が移行している。つまり狭義の自立は「自分で何でも行う」ことに力点が置かれたが、それより「自分で決定や選択」をして、他者の手によってでも、社会の一員としての活動をより展開していくことのほうが重要ではないかという考え方である。

手すりを8本つけました
おじいさんの移動のために

Iさん・87才・男性

A　老衰のため歩行が困難、廊下やトイレ内外、洗面所入口に手すりを付けてほしい。

B　虚弱のため車いす使用、妻と長男の家族と同居、家政婦や嫁の介助を得て生活。

C　寝室からトイレへの廊下の両側に木製手すりを2本。トイレ内の便器右サイド壁面に木製補強板を木ビス固定後、ステンレス製手すりを1本。

トイレ内からみてドア右側に30センチの手すりを縦に1本。

洗面所ドア外側両サイドに30センチの手すりを縦に2本。洗面所ドア内側右サイドに30センチ手すりを縦に1本。

中庭からリビングへの上がり口の建物外壁に木製補強板を木ビス固定後、130センチの木製手すりを縦に1本。

合計8本の手すりを取り付けた。

D　移動しやすくなったと喜んでいただいているご様子。

木製の補強板と木製手すりは、デザイン的にも違和感がなく周囲ともフィットしてよい。

正面玄関を入ったところが洗面所入口のため、若奥様は30センチの手すりがやや大げさで一寸気になるご様子だが、おじいさんのため妥協。

下地対応のためビスを複数種類持参必要。下地の探り方、対応の仕方の経験、研究の必要を感じた。

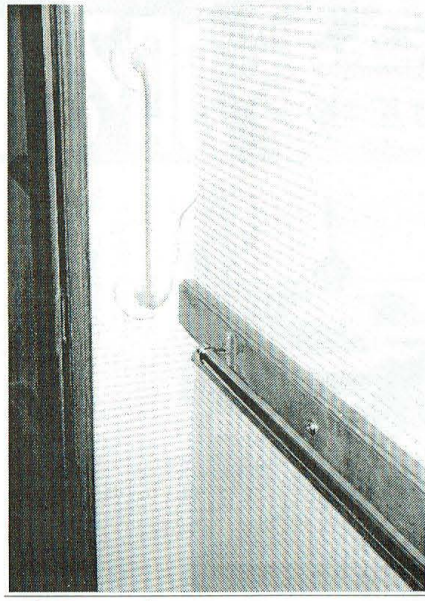
★★★

A・ニード

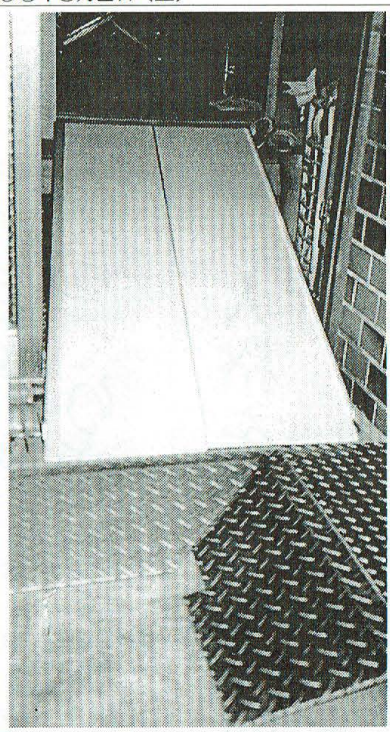
B・日常生活と家庭状況

C・解決方法

D・改善後の状況と考察



トイレ内の手すり



苦心の変形スロープ

玄関に変形スロープ

Uさん・72才・男性

A　車いすで病院に行くため、玄関にスロープを作ってほしい。持ち運びをするので軽いものがよい。

B　脳卒中で倒れベッド生活。週1回病院に通院。

C　玄関入口と上がりかまちが真っ直ぐに通っていないので、変形スロープを作り、ノンスリップシートを表面に貼る

D　製作時間が多くかかったが完成。製作の時、杉浦さんの事務所を貸していただき楽しい1日でした。

道路での作業が大変
二人で一日掛かりの製作

Nさん・70才・男

A　車いすでの移動のため段差を解消してほしい。

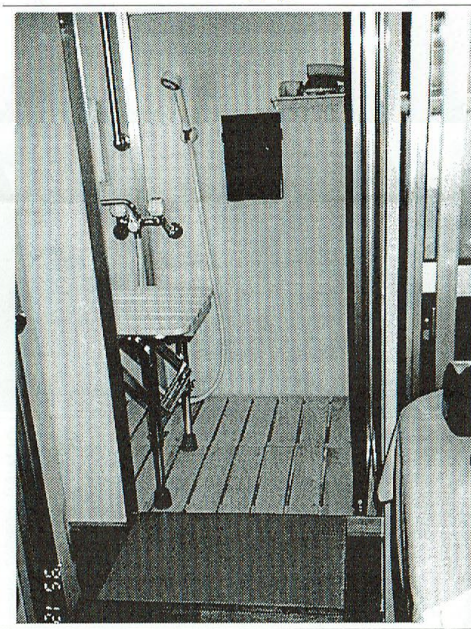
B　肢体と言語が不自由で、車いす生活。日常介護の全てを、奥さんが一人でまかなっている。

C　玄関に20センチ、居間に20センチの段差があり、それを解消するためにスロープを製作。前もって、木工所において部品カットをすませた上で、現場組立にのぞみましたが、それでも適当な作業台のない場での製作は、結構大変でした。

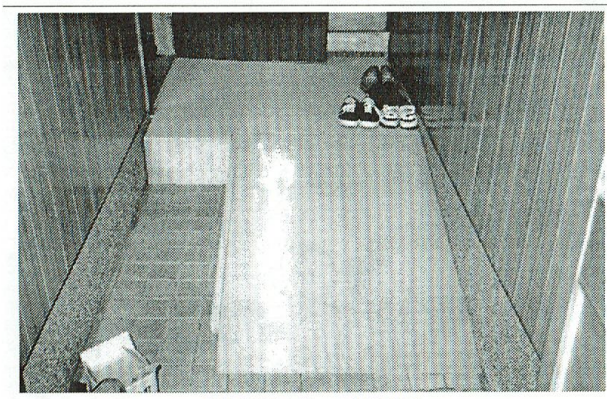
表の道路で作業をしていると、近所の人たちも声を掛けていきます。

12月の初旬には珍しく、穏やかな日和も幸い。

二人掛かりで、たっぷり一日かけて完成。表面にノンスリップの塩ビシートを貼って出来上がり。



狭くても工夫次第



自転車のスペースをあけて

浴槽にはいれました
入浴補助台を縮めて

Mさん・77才・女性

A　六月にユニットバスを設置したが、本人の右足が上がらないため、浴槽につかることが出来ずシャワーのみ、何とか浴槽にはいりたい。

B　夫婦二人暮らし。右足が不自由だが、ゆっくりなら歩ける。家事はご主人がやっているが、本人も茶碗を洗う位できるようになった。市営住宅4階建の3階部分。

C　浴室入り口の段差解消のため踏み台を作りノンスリップシートを貼る。

浴槽入口の高さにあわせてスノコを作る。ご主人が持ち運びできるように、スノコは2枚に割る。

浴槽の縁にいったん腰を掛けて中へ入るためのバスシートを設置。既製品を15センチ切断。

浴槽に出入りするための手すりの取付け。壁面の薄いユニットバスのため、窓から手を伸ばし、外側からも固定した。

浴室の入口とベランダの入口との間に15センチ程の隙間があるため、そこから風が入るので板を張った。

ベランダで洗濯を干す時、よく転倒するとのことで、ブロックを敷きつめて段差をなくした。

D　暮れも押し詰まってからの工事で、製作者に大変迷惑をかけましたが、やっとお風呂に入れたし、隙間風も入らなくなったと大変喜ばれホッとしました。

お手伝いください

当研究会が発足して以来、数多くの福祉機器の製作や住宅改善に取り組んでいりました。

マスコミにも何度か取り上げられ、今では幅広い地域からさまざまな相談が寄せられています。

それぞれのニーズに対応しながら製作や改善に取り組んでいますが、このところ大きな改造の注文が増えてまいりました。

住宅改造等の経験のある良心的な業者の登録をお待ちしています。特にトイレ、浴室などの水まわりの工事が出来る業者を歓迎いたします。

詳しくは事務局（765・4041）宇賀神まで

定例会のお知らせ

《四月》

日時・四月六日（土）午後一時三十分～五時

場所・大阪市立社会福祉センター三階五号室

テーマ・「障害者と就労」

講師・株式会社　関電エルハート

業務部　副部長　中井　志郎氏

事例報告その他

《五月》

日時・五月十一日（土）午後一時三十分～五時

場所・大阪市立社会福祉センター三階五号室

テーマ・「福祉は住まいから」

講師・神戸大学名誉教授・早川　和男先生

事例報告その他

事務局より

☆通信費納入のお願い

「モノづくり通信」等を送付するための通信費等の協力金を、平成7年度から戴いています。

年度毎に1・000円

《納入方法》

事務局に直接ご持参下さるか、郵便振替でお願いします。

《郵便振替口座番号》

00920・2・3023360

《加入者名》

福祉機器・住宅研究会

（注）年度中定例会に出席がなく、通信費等協力金の未納の方は会員としての資格を消滅するものとします。

☆1・2月のご寄付

山田ミサ子さん（7・905円）以前報告しました会員外の方で、ご近所の方々から募金を集められ、当研究会へご持参いただきました。会員の方では、八木道夫さん、木村多加緒さんです。ありがとうございました。